

再意見提出フォーマット

再意見提出者	読売テレビ放送株式会社
--------	-------------

意見項目	意見内容
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	<p>放送もワイヤレスブロードバンドの一つである事を踏まえ、国民の文化や情報環境を向上していくために放送事業者も積極的に関与していきたいと考えます。そのためにも800MHz帯FPUや特定ラジオマイクなどの番組素材伝送システムはその周波数特性を生かして有効活用し、良質な番組・情報を提供していく事が重要です。</p> <p>800MHz帯FPUの必要性</p> <p>放送事業者の素材伝送ではFPUをその周波数特性を考えた上で使い分けしています。7～10GHz帯FPUは長距離伝送に優れており、報道素材を早急に現場から放送局本社に送る用途に使用、特に7GHz帯FPUは降雨減衰に強く台風災害、豪雨災害などSNGや10GHz帯FPUでは伝送困難なケースでの災害報道の長距離伝送に使用しています。ただしどちらの周波数帯でも見通し伝送になり送信機を設置するのに制約が生じるため機動性のある素材伝送を行うには難しい面があります。その制約を補うのが800MHz帯FPUになります。7～10GHz帯FPUでは不可能な見通し外伝送が行えるため送信機設置場所が比較的楽で機動的にまた安全に伝送が行えるメリットがあります。そのため弊社では地震・津波・台風・豪雨などの災害時にはいつでも報道中継・報道素材伝送に持ち出せる用意をしていますので常時使用状態といっても過言ではありません。移動中や過酷な条件下でも使用可能な800MHz帯FPUは災害時において視聴者に幅広い安全情報を即時に提供していくために不可欠なFPUといえます。</p> <p>800MHz帯FPUの周波数帯域について</p> <p>現在800MHz帯FPUとラジオマイクで4チャンネル(36MHz)を共用しておりますが、災害時での多様な情報提供や高画質化、ラジオマイクの今後の増加を考えるとチャンネル数は足りていません。あと2チャンネル(18MHz)の追加を要望します。</p>

意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
-----	-------	-----------------

	<p>800MHz帯FPUを他の帯域へ移行すべきという意見</p>	<p>先にも述べましたが、放送事業者は伝送に関して周波数特性を生かした運用を行っています。移行帯域はどこでもいいというわけにはいきません。見通し外伝送が可能な帯域（1GHz以下）でないと現在と同様な運用ができません。</p> <p>1GHz以上の帯域になると移動中継では地上での直接受信は遮蔽物の関係で難しく、上空のヘリコプターへの伝送となり低空飛行でのホバリングによる騒音や安全性に問題が出てきます。</p> <p>またホワイトスペースへの移行では広範囲において共通な帯域を取るのが難しい事や、テレビ受信機への影響が懸念されます。</p> <p>どちらの帯域への移行でもかなりの時間をかけた検証が必要となってきますので、早期移行は難しいと考えます。</p>
	<p>ラジオマイクを他の帯域へ移行すべきという意見</p>	<p>ラジオマイクは放送事業者でも必要不可欠な無線機となっています。現在の番組制作では出演者が自由に動ける事が多様な演出に繋がるため、マイクはラジオマイクが主流となっています。コンサートでも多用されているため音楽業界でも同様だと思われます。</p> <p>20年前は400MHz帯のラジオマイクが使われていましたが、受信不良やノイズがのりやすい等の問題があり現在の帯域へ徐々に移行になりました。当初は音質やスプリアスの問題もありメーカーとユーザーが切磋琢磨しましたが、プロサウンドでも耐えうる信頼性を得るのにかなりの時間を有しました。そのため現在の受信性能、音質、周波数幅、信頼性を損なうような帯域への移行は不可能だと考えます。</p> <p>ラジオマイクをホワイトスペースへ移行すべきという意見が出ていますが、ラジオマイクも番組取材など移動しての運用やコンサートなど野外での運用に多用されています。隣接テレビ波の影響を受けずに安全な運用を行うためには高度な送受信機の開発が不可欠です。また反対にテレビ受信機への影響が懸念されます。現在A型ラジオマイクの送信機は約1万7千台とかなりの数が運用されています。これを他の帯域へ移行するには経済状況も考慮すると長期間の移行期間が必要になると考えます。</p>